



発行
西区人権尊重連絡会議
(事務局)
西区生涯学習推進課
(☎895-7027) (FAX882-2137)

第50回福岡市人権を尊重する市民の集い

講演「障がい価値に変える」

〜バリアバリューから未来を創る〜

株式会社ミライコ講師・一般社団法人
日本ユニバーサルマナー協会認定講師
原口 淳さん

令和3年12月9日(木)、西市民センターにて、株式会社ミライコ講師、日本ユニバーサルマナー協会認定講師の原口淳さんをお招きし、「障がい価値に変える〜バリアバリューから未来を創る〜」をテーマに人権講演会を開催しました。



見えないからこぼれていく

原口さんは生まれつき視覚障がいがあり、目が見えません。それでも家族の中では普通の子どもと同じように育てられました。しかし、小学校に上がるころ、家族とは違う、周囲の目に気づき始めます。何かをすると、「凄いね。頑張り屋さんだね。偉いね。」と言われる。周りの反応に違和感を感じ、原口さんは自身の障がいを意識するようになったそうです。

原口さんは小学校から高校までを盲学校で過ごします。一般の学校に通う姉との差を感じ、自身に障がいがあることを痛感します。高校時代の先生に「目が見えなくても声がある。見えないからこそ伝えることができる事がある。」と言われ、他の人と対等にできる事がしたいと思いついに所属。全国大会に出場する等の活躍をおし、コミュニケーションの大切さに気づきます。

今、向き合おうべきバリア

多様な方が暮らす社会においては、様々なバリアがある。と原口さんは言います。「環境のバリア」は階段やトイレ等、移動や施設を利用する上で障壁となるバリアです。なくすには時間とお金がかかります。そこで大切なのが「意識のバリア(心のバリア)」を変えていくことです。ハードは変えられなくてもハートは今すぐ変えられます。「何かお手伝いできることはありますか。」の一言で、障がい者の方が、行きたい場所に行くことができるようになります。心のバリアフリーが大切なのだ。

私たちに求められたい

視覚障がいや聴覚障がいがある方の気持ちを体感するため、参加者とゲーム形式のワークも実践しました。1つ目は、参加者が目を閉じて、音声だけの情報で、スクリーンに映し出す絵を想像するもの。2つ目は、音声のない動画を見て、相手が何を伝えようとしているのか感じ取るものです。相手の気持ちを察し、パッと気づいて、サッと動く、さりげない配慮が必要だと学びました。

多様性(と向き合う)のために

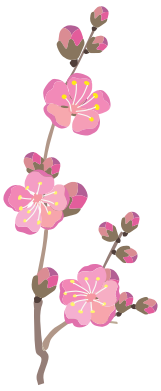
講演の最後に原口さんは、「100点満点を目指さなくてもいいんです。思いやりと優しささえあれば誰にでもできることです。完璧じゃなくてもいい、できることから少しずつやっていきましょう。」と言われました。「思いやりと優しさ」、改めて人権の大切さを考えるきっかけとなりました。

参加者の感想

○ハードは今すぐ変えられないが、ハートは今から変えられる。とても心に響きました。

○とてもはつきりとした聞きやすい声で、大事な事を簡潔に伝えていただき、わかりやすかったです。

○「何かお手伝いすることはありませんか」と声をかけることが大切だと思いました。



令和3年度「西区人権を考えるつどい」

ピアノ弾き語りコンサート

〜ともに生きる未来へ〜 夢見る力を信じて

視覚障がいの音楽家 前川裕美さん

令和3年7月9日(金)、西市民センターにて、視覚障がいの音楽家、前川裕美さんをお招きして、「〜ともに生きる未来へ〜 夢見る力を信じて」と題したピアノ弾き語りコンサートを開催しました。

プロフィール

前川裕美さんは、幼少時より弱視で、小学5年生のときに進行性の難病・網膜色素変性症と診断され、徐々に視力、急激に視野を失っていく。中学1年生からクラシックの作曲理論を学び始め、高校の音楽科に進学。1998年、単身アメリカに渡り、ボストンにあるバークリー音楽大学に入学。2004年より全国各地でトーク&コンサート活動を続け、人々に夢と希望を届けたいと奮闘中。



トーク&コンサート

はじめの曲は『スマイル』。「口角をあげて笑ってみる。笑顔には魔力がある。」と前川さんは話します。網膜色素変性症という病気が

は、視力が低下し、視野が狭くなり、色を見分ける力が弱まるなどの症状があり、人によって病気の進行や症状が違ってくるそうです。

そんな病気のことには周囲だけでなく家族にも中々理解してもらえず、中・高校生の頃、裕美さんは辛い時期を過ごしました。「日本は生きづらい、海外でも同じなんだろうか。」裕美さんはアメリカ留学を決断し、周りの大人やお母様の反対を押し切って渡米しました。

そこはまるで別世界。日本では弱視であることをなかなか信じてもらえませんでした。アメリカでは、弱視の人がいるのは当然だし、人により見え方が違うことも理解されていたのです。裕美さんは、ここにきてようやく「ヘルプミー(助けて)」と言えるようになったそうです。

日本と違い、アメリカでは何事も自分で決めないといけない社会でした。「本当の意味で自分が人生の主人公にならないといけない」と思ったそうです。

そして、ありのままの自分を愛してくれた盲導犬グレイスと過ごした日々。その後の結婚に至るまでの心境を表した曲、『愛の真実』を、ありし日のグレイスの写真とともに歌われました。

さらに、人生で一番悩まれた末、生むと決心し、授かった息子さんステージ上に登場され、『おかあさん』を歌われました。

最後の曲は『ねがい』。この曲は、お母様が詞を書かれ、その詞に曲をつけてほしいと裕美さんに頼まれた曲でした。この詞を見たとき裕美さんは、お母さんは変わったと思われたそうです。これまでお母様は自分のことを理解してくれないと思い、すれ違っていた日々が続いていました。そんな時に、オランダでの国際網膜世界会議にお母様と一緒に参加し、同じ境遇の親子が互いに励まし合う体験談を聞きました。その時お母様は「私は正反対の子育てをしてきた」と言われたそうです。この大会に親子で参加したこと、ありのままに生きる大切さをお母様と共有し、二人にとって人生の分岐点となったそうです。

講演は次の言葉で終わりました。「たとえ障がいがあったとしても、周りから愛され、優しくされ、大切にされ、あなたは生きていく価値がある。周りからも必要とされている。」ということをお母様の言葉で、態度で、そして行動で示してあげることが大切だと。

愛と感動にあふれたトーク&コンサートでした。

参加者の感想

○すてきな歌声、ピアノ演奏、心にひびきました。

○お母様と気持ちを分かち合えた話に感動しました。

○前川さんが迷いながらも前向きに生きていらっしやる姿に感動し、元気をいただきました。

人権が尊重されるまちづくりをめざして

吉岐南校区 町別人権研修のあゆみ

吉岐南校区 人権尊重推進協議会

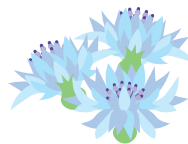
毎年12月4日～10日は福岡市人権尊重週間です、この時期に合わせて、吉岐南校区において公民館主催ではありますが各自治会が自主的に『町別人権研修』を開催しています。

この活動は、歴史的には1979年より前身の吉岐校区自治連合会時代の町別同和教育研究会から受け継がれ、現在の吉岐南校区自治協議会においても町別人権研修として活発に活動は継続されています。

名称についても2013年に『社会同和教育推進協議会』より『人権尊重推進協議会』と変更され、同和問題のみならず幅広く人権問題に取り組んでいます。当初は公民館職員が主体と

なっており町別人権研修が行われ、そこで住民が疑問に思ったことや質問を公民館だよりで解説し、その掲載50回を機に小冊子『同和問題』Q&Aにまとめ、各種研修会の教材として活用されています。

現在は福岡市があげる『同和問題』をはじめとする人権8課題に関わる講師を招いての形式も多くなっています。日常生活の中では気づいていない人権問題を改めて考え、学習する機会を提供しつつ、研修後の座談会にて意見を交わし、更に理解を深め持続可能な活動に高めています。



これからの新しい人尊協のあり方を目指して

〜できることをできる範囲で〜

西都校区 人権尊重推進協議会

西都校区は、伊都土地地区画整備事業・JR筑肥線九大学研都市駅開業・九州大学統合移転完了等に伴うビル建設ラッシュによる人口増で、周船寺小学校・玄洋小学校から分離した西都小学校の開校と同時に、2017年4月に誕生した、新しい校区です。

校区人権尊重推進協議会は、同年12月、校区37の機関・団体を結集し組織され、5年目を迎えます。周船寺校区人尊協の流れを引き継ぎ、「一切の差別を無くし、一人ひとりの人権が尊重され、明るい住みやすいまちづくり」を目指し活動を開始しました。当初の2年間、各種研修会・

小中学校との連携・町別研修会・人権標語募集・人権のつどい・広報誌『きずく』発行等、活動も軌道に乗り、ホップ、ステップとスムーズなスタートができましたが、この2年間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの活動が中止、休止に陥りジャンプしたまま、着地ができない状態です。その間、できることをできる範囲で、役員研修、人権標語の募集、広報誌の発行は継続し、毎年新しい人権標語が誕生し、校区内に掲示されています。

本年度は、幸いコロナの状況も落ち着き、12月の人権週間に合わせて「人権のつどい」を3

2021年度 吉岐南校区 人権標語
吉岐南校区 3年生 最優秀作品
『声に出せ
少しの勇気で
変われるよ』



密に配慮し開催に踏み切りました。

「ハーブとギターの癒やしの演奏会」コロナで疲れた身体と心を元気にしよう」と題した演奏は、心豊かに楽しく生きる喜びと幸せになるようなメッセージをいただきました。

西都校区の人口増(特に若年層・幼児)は凄まじく、すでに西都小学校・元岡中学校の分離も決定しています。

これからの校区の特性、多様性に向き合った人尊協のあり方を模索しながら、学習を深めていきたいと思



令和3年度入選作品(西区内)

毎年12月の人権尊重週間にあわせて、福岡市が募集した標語やポスターのうち、西区内の入選作品を紹介します。

「ありがとう」
言えたあなたに
金メダル

能古小学校6年 本田 蒼一郎さん

「冗談だよ」
受け取る側は
分からない

下山門小学校6年 西島 美月さん

きずつくよ
たった一つの
その言葉

福重小学校6年 毛利 幸歩さん

きづこうよ
みてみぬふりも
いじめだよ

北崎小学校5年 柴田 海希さん

だれかじゃない
みんなで作ろう
笑顔の輪

石丸小学校5年 吉永 楓望さん

いじめだと
気づいてほしい
その言葉

石丸小学校5年 鷹野 遼磨さん



吉岐小学校6年 武田 穂乃花さん

令和4年度「西区人権を考えるつどい」予告



西区人権尊重連絡会議では、毎年夏に「西区人権を考えるつどい」を開催しています。
令和4年度は8月26日(金)に福永宅司さんを講師としてお招きし開催する予定です。福永さんは、福岡市の小学校教諭として20年以上、子どもたちの学力保障と人権教育に携われ、その実践をもとにした講演や一人芝居などの表現活動をされています。詳細は後日市政だより等でお知らせします。ぜひご参加ください。

編集後記

今年度もコロナ禍の中、西区人権尊重連絡会議をはじめ、各校区の人尊協や公民館・学校での活動など、人権啓発活動が思うようにできない年でした。今後は、オンラインの活用など、実施方法を工夫、新しい生活様式の中で、希望を抱きつつ、住みやすい地域づくりを目指して、皆さんと共に、人権が尊重されるまちづくりを進めてまいります。